

会長 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 06-6833-9227  
事務局 〒577-0054 東大阪市高井田元町1-14-2 岡本 至弘 06-6788-2796  
編集室 〒586-0039 河内長野市楠ヶ丘11-18 中川 良三 0721-65-0348  
HomePage担当 〒577-0054 大阪市住之江区南港中3-3-31-520 坪井 仁志 06-6613-2836

令和5年7月(2023年) No.691

### 第63回OMC映像フェスティバル

## 10月2日(月曜日)に決まる

恒例の大阪ムービーサークル映像発表会は、10月2日、大阪市立中央会館と決まりました。例年だと日曜か土曜日に会場を予約していたのですが予約が出来ず、止む無くウィークデーの月曜日となりましたが、来場者の顔ぶれを見ていますと、現役で働く人よりも、もうリタイアされている方が多く、動員数にあまり影響はないと思われます。全国の映像発表会も多くは平日の方が多いため現状です。土日は予約が取りにくいのと料金が平日の方が安い、という事もあるでしょう。はじめての平日発表会ですが会員諸氏の動員の方もよろしくご協力ください。

さあ、発表会が決まった所で、後は作品の方です。観客の皆様にも、さすがOMCさんの作品だけある、と感じてもらえるような作品を集めたいものです。

- 作品選考・プログラム編成会議：令和5年8月1日13時より、近鉄又はJR河内永和駅近く東大阪市立市民多目的センター(TAMOKU)小会議室にて開催。幹事の方は別途案内を付けて後日お渡しします。また各自自薦される方は早めに合原会長に申し出て下さい。

岡本至弘副会長が2回目の個人映写会8月11日(祭日)

### 近鉄布施駅前リージョンセンターで10時～11時半

家庭倫理の会主催にて上記「映像鑑賞会」が行われますので、どうぞお越しください。上映作品 ①短歌紀行・桜花爛漫、②丹後半島・伊根の印象、③華岡青洲の里・青洲まつり、それに特別出品として合原作品「米寿を越えて」を加え4作品が上映されます。

## 7月例会ご案内

- 第二例会：20日13時より、撮影会作品公開コンテスト及び一般作品上映通常例会より30分早く開始いたしますので担当世話役諸氏、早めにご来場を
- 通常例会：22日(第4土曜日)13時開場13時30分上映。器材担当者は30分前に、他の担当世話役は15分前までには会場にお越しください。

## 6月例会レポート

梅雨どきの晴れ間の例会日、さすがに気温も上がり、街行く人の姿も夏めいてきました。

人出も多くなり、例会後の二次会では、いつもの喫茶店組7名は、空いている喫茶店が無く、急遽、居酒屋組の行きつけの店に何とか合流させてもらって、しばしのだんらんを楽しみました。

■ **運営担当**：司会 上総、書記 高瀬、YouTube 関係 高瀬、映写 坪井、山本  
メモリー記録 中川、受付・照明 宮崎、大久保の各氏

■ **出席者**：岩井、江村、大久保、岡本、上総、合原、高瀬、高田、坪井、鉄具、  
中川、中村、宮崎、山本の14氏

上映作品（今月の書記は高瀬氏）

### 1. 短歌紀行 桜花爛漫 BD

岡本至弘 9分10秒

（作者コメント） 4月例会に出品した作品「桜咲くころ」の改作です。画像をリメイクの上、タイトルを変更して、短歌を挿入してみました。

（書記コメント） JR 阪和線の山中溪（やまなかだに）駅周辺

には1000本の桜が植えられ、桜の名所として有名。その桜が満開の頃に訪ねられた。山中溪に始まる桜の描写はアップやワイドなど多彩で、アングルなども変化に富み、見応えがある。さらに猫のたま駅長で知られる和歌山電鉄貴志駅に移動し大池遊園の桜などを丹念に撮られている。ただ「短歌紀行」とタイトルにうたわれており、短歌がいつ詠まれるかと期待するが、スタートから三分の二の6分過ぎまで出て来ず、その後、続けて2首詠まれている。歌の内容と関係もあるのですが、短歌の挿入構成がややアンバランスな感じがします。また作者が3回ほど画面に登場されているが、短歌紀行にふさわしく、短歌を考えているシーンとするなどの工夫が欲しいという感想もあった。



### 2. 嵐電の詩 BD

高瀬辰雄 8分30秒

（作者コメント） 平成25年に制作、発表した「RANDEN」を短く再編集し、前半に桜のシーン、後半に雪のシーンを新たに加え、「嵐電の詩」というタイトルに作り直しました。

（書記コメント） 映写後、春の桜、夏の風景、雪の冬とあるが、秋のシーンがないのが残念。沿線の生活者と電車とのつながりなどを描いた情景の映像も欲しいといったコメントがありました。



### 3. 山里のうた BD

合原一夫 13分50秒

（作者コメント） 今は無き「天六ビデオクラブ」の撮影会作品。奥飛鳥を舞台に女性が亡き母の初恋日誌を手に現地を訪ねるというストーリー。当時はモデルを使った撮影会が多かった。今は懐かしの作品である。フィルム作品で色あせをしているのが残念。1979年（昭和54年）作。

（書記コメント） フィルム時代は撮影会と言え、必ずと言っていいほどモデルが登場していました。モデルと母の日記と奥飛鳥の風景をうまくからませて制作されている。場面転換にオーバーラップやフェードアウトを使用したシーンがいくつか出てきます。今のPC編集なら撮影の後で簡単に加工できるが、当時フィルムではオーバーラップ



は撮影のその場で、一旦フィルムを巻戻して、前のカットに被せて撮影しなければなりません。うまく重なっているかどうかは現像があがってくるまで分からない。まさに勘と経験に頼った撮影だったのを思い出しました。フィルムの色あせは残念ですが、数年前に京都のテレシネ専門業者「吉岡映像」の吉岡さんに聞いた話では、昭和50年代中頃（53年～58年頃と言われたように記憶？）のシングル8のフィルムはなぜかその前後の年代の物に比べ色あせが著しいとかで、少しでも早くテレシネし、デジタルに変換した方が良いという事でした。

**4. 暗越奈良街道** **BD**  
**江村一郎** **9分20秒**

（作者コメント） 4月の「暗がり越え」で奈良まで行っていないので、改めて今里から「暗越奈良街道」として平城宮、そして春日大社まで行く。平城宮跡で天平行列が行われ、衛士隊・歴代天皇・女官などが華やかな天平衣装を身に着け練り歩く、今回その一部を紹介しています。最後の春日大社では砂にすれるという砂ずりの藤がほとんど終わっていたのは残念でした。



（書記コメント） 4月の作品は暗峠までが主体の作品で、松尾芭蕉の話が印象的だったが、今回は暗峠越えから後の道程と、奈良に入ってから平城宮でのイベントや春日大社の風景も加えられ、ボリューム感が増している。古い街道というだけでなく、道行く人や働く人たち、道沿いの草花などを独特のカメラアングルで描写し生活感あふれる街道というイメージをうまく表現されている。ラストの春日大社の砂ずりの藤の時季が終わっていたのは残念ですが、静止画はあえて必要かどうか、迷うところです。

**5. 台湾・九份の昼と夜** **BD**  
**高田幸夫** **8分**

（作者コメント） コロナ禍後3年ぶりの高雄ステイです。久しぶりに九份に立ち寄り、昼と夜の九份を撮って来ました。ナレーションは自声の訓練として吹き込んでみました。



（書記コメント） 九份は台湾北部の山あいにある街。中国と日本統治時代の雰囲気をも併せ持つ街として知られる。この街を有名にしたのは台湾映画「非常都市」のロケ地となったことや「千と千尋の神隠し」のモデル（？）ではないかと言われ、人気が出た。以前にも訪れたことがあるということで、登場される奥さんも街に親しみ、落ち着いた様子がかげえ、撮影ポイントも心得ておられるような印象。画面に登場するのは奥さんだけだが、ナレーションでご夫婦の旅と語られているので、お二人での映像も欲しいという感想があった。ナレーションは自声でややスピードを早める処理をされたとか、スピードを早めると、少し声の質が高くなり、歯切れがよく、映像にマッチしているように思います。

**6. 東京見物 2023** **BD**  
**上総秀隆** **4分48秒**

（作者コメント） 日本アマチュア映像作家連盟の総会の翌日、貸切バスで都内の四ヶ所を廻りました。

（書記コメント） 東京で行われた日本アマチュア映像作家連盟の総会に出席、都内の観光撮影会に参加し、制作された作品。小石川後楽園、赤坂迎賓館、NHK放送博物館、ニコミュージアムの4ヶ所に行かれたが、赤坂迎賓館以下はさらっと紹介されただけ



で、印象に残った小石川後樂園にスポットを当て、まとめられたのは正解だったと思う。しかし雨が激しく降る悪天候で、三脚も使えず、時間も限られ、撮影はかなり苦勞されたものと思われる。雨にけむる花菖蒲の美しさは印象的。

## 7. 天野の里の史跡

BD

中川良三

6分33秒

(作者コメント) 撮影会の下調べや花盛祭前日の映像を編集しています。史跡が結構あるようなので調べてみました。

(書記コメント) 撮影会で訪れた和歌山県伊都郡かつらぎ町の天野の里の史跡を撮影された。丹生都比売神社をはじめ石造五輪卒塔婆群、貧女の一燈お照の墓、西行堂、西行妻娘宝篋印塔、横笛の恋塚といった史跡をナレーションで説明され、よく分かる作品に仕上げられている。ただ、それぞれの場所を説明するのに Google Earth の俯瞰画像が使われているが、史跡を移動する度に出てくるので、映像の流れが中断されるような感じを受けます。最初と最後にそれぞれの場所を表した現地の標識が出てくるが、これの方が分かりやすく、Google Earth の画像は天野の里全体を表現するものとして、使われた方が合っているように思います。



## 8. 神話の舞台を訪ねて

BD

鉄具嘉夫

10分

(作者コメント) 古事記には面白い物語があります。その神々の古墳に行ってみました。しばらくその話にひたることが出来ました。その話は三浦佑之訳、古事記 ナレーション 麻中恒子

(書記コメント) 古事記を元に登場する神々の古墳、神話の舞台を訪ね、よく調べてまとめられた労作。女性の語りが素晴らしく、古事記に記された古墳や神社などにまつわる多くの話が出てくるが、よく似た風景が何度となく出てきます。神話などを作品化する場合、



思わず聞き入ってしまいます。古墳の周りの堀や池、水鳥などよ

## 9. 中高野街道

BD

山本正夢

10分

(作者コメント) 中高野街道は平野を起点とする説と守口を起点とする2つの見解がある。今回は守口からスタートしました。

(書記コメント) 守口から河内長野までの中高野街道 35 キロを歩かれての作品。いつものことながら精力的な制作意欲には驚かされます。数えきれないほどの神社や史跡が出てくるが、その

すべてを安定した映像で描写されている。特に今回はBGMのテンポが最初はゆっくりで、次第に早まっていき、リズム感がある。ちなみに何カットあるのか数えてみると、実に220カット。映写時間10分ですから平均すると1カット約2.7秒の計算(通常10分の作品では120~130カットくらい)。撮影ではもっと多くのカットを撮られていると思われるので、編集は大変。ただ史跡の説明書きなどはほとんど読んでいない時間はない。



## 10. 撮影会懇親会

BD

中川良三

6分20秒

(作者コメント) 撮影会の懇親会の様子。

(書記コメント) 撮影会の懇親会で明日の花盛祭のスケジュ



ールの説明に合わせ、4分割された画面の一つに花盛祭の雅楽や渡御の儀の映像を加え、撮影会作品の予告編的な内容で、コンテストへの皆さんの興味と期待が高まったものと思われる。

## 第8回懐かしの映像を楽しむ会

7月27日（木曜）13時半より

近鉄布施駅前「夢広場」で

当初OMCだけで開催するかと考えていましたが作品が集まらず、又大阪アマ連の他クラブから出品の意向が伝わって来ましたので、今回も正式に大阪アマ連主催の発表会と致しました。それでも作品数が少なかったので会場を30分遅らせました。

岡本大阪アマ連事務局長のお骨折りで、プログラムも安く準備出来ました。

### ■ プログラム

- ① 郡上八幡の夏 高瀬辰雄
- ② 雲 南 故 上総修一郎
- ③ 万灯供養 江村一郎
- ④ 天にとどけ この祈り 山本正夢
- ⑤ 天孫降臨伝説の高千穂 鉄具嘉夫
- ⑥ 氷と神秘の島 グリーンランド

高田幸夫

=休憩=

- ⑦ ベトナム水上人形芝居 柴辻英一
- ⑧ 大原女装束時代行列 宮崎紀代子
- ⑨ 武蔵の里のムサシさん 竹田幸男
- ⑩ 清水白桃に寄せて 井原康亘
- ⑪ ちんどんでふれあい 岡本至弘
- ⑫ 水芭蕉の咲くころ 合原一夫

終了予定 16時30分

題名	作者	時間	制作年
1 郡上八幡の夏	高瀬辰雄	12分	2003年
2 雲 南	(故) 上総修一郎	15分	1985年
3 万灯供養	江村一郎	06分	2004年
4 天にとどけ この祈り	山本正夢	09分	2007年
5 天孫降臨伝説の高千穂	鉄具嘉夫	10分	2008年
6 氷と神秘の島グリーンランド	高田幸夫	08分	2014年
— 休 憩 —			
7 ベトナム水上人形芝居	柴辻英一	10分	2000年
8 大原女装束時代行列	宮崎紀代子	07分	2012年
9 武蔵の里のムサシさん	竹田幸男	10分	2003年
10 清水白桃に寄せて	井原康亘	17分	2006年
11 ちんどんでふれあい	岡本至弘	14分	2005年
12 水芭蕉の咲くころ	合原一夫	17分	1990年

### ■この発表会が東大阪市後援事業に発展

会場が安く借りられるとの主旨で試験的に近鉄布施駅前会場を開催地と決めましたが、後日大阪アマ連事務局長の岡本氏の交渉で、何と東大阪市の後援という位置付けを約束されました。はじめての経験ですが、この上は、観客動員にも力を入れ、会場一杯の盛会へと持っていきたいものです。

会員諸氏のご協力をお願い致します。

## 第27回大阪アマチュア映像祭

11月開催に向けて準備始まる

大阪市立中央図書館祭りの一環として、毎年11月頃に行われている「大阪アマチュア映像祭」は、今年27回を迎えます。大阪アマチュア連盟の数も減って、今や4クラブとなりましたが、常にOMCが中心的な役割を演じてきました。第27回目を迎え、去る6月19日（月）総会を開き、方針が決定されました。プログラム編成会議は8月21日（月）13時より難波市民学習センターにて行われます。各クラブの所属人数に応じて割り当て時間が決まります。OMCは会員数が24名で時間配分は56分です。もっとも他クラブで割り当て時間を満たし得ないクラブのことを考えて、OMCとして「1時間分」の作品を用意する必要があります。

OMC フェスティバル映像も 10 月にあることから、大阪アマ連の発表会への作品提供は正直言って発表会にふさわしい作品がどれほど用意できるか難しいところです。

大阪アマチュア映像祭に出品された作品は、DVD として大阪市立中央図書館に納められ、一般の方に貸し出されますので。作品が図書館に残るという事は、名誉なことではあります。自分で持っているだけでは自分が居なくなってしまうたら、おそらく作品もそれで消えてしまうかもしれません。

その点でどこかで保管されているという事は有難いことです。この点も考えて大阪アマチュア映像祭への出品も前向きに考えてご協力願います。

## 撮影会の場所選びに思う

会長 合原一夫

今年の撮影会は、和歌山県「丹生都比売神社」の花盛祭をメインとした企画でしたが、参加者に伺うと行列が短くて作品としてどうまとめるか苦労している、という方が多い。確かに祭りの行列だけでは、他にめぼしい被写体が無いと作品にはなり難いのは事実であろう。そこは智恵と工夫で何とか作品を作って頂きたい。7月第二例会 20 日（第 3 木曜）の公開コンテストに出品してほしい。皆さん、どう纏められたか楽しみではある。さて、一泊撮影会はどこな場所が選ばれたか調べてみた。

### ■ 過去 28 年間の一泊撮影会記録

R4 年；兵庫県福崎町柳田國男関連	H19 年；岐阜県垂井町曳山祭り（歌舞伎）
R2～3 年；コロナで中止	H18 年；兵庫県香美町余部鉄橋、朝市場
H31 年；丹後半島伊根湾	H17 年；和歌山県橋本市「へら竿師」
H30 年；近江八幡日牟礼八幡宮 松明祭り	H16 年；淡路島沿島のまつり
H29 年；和歌山県湯浅・有田・中将姫祭	H15 年；滋賀県日野町・日野祭り
H28 年；京都府美山	H14 年；小豆島、農村歌舞伎・お遍路
H27 年；兵庫県たつの市室津・加茂神社	H13 年；福岡県柳川ひな祭り・川下り
H26 年；和歌山県加太港界隈、友ヶ島	H12 年；淡路島、花博、鬼瓦公園他
H25 年；信楽焼の郷	H11 年；熊野古道・女性を使ったドラマ
H24 年；近江八幡・沙沙貴神社火祭り	H10 年；高野山
H23 年；和歌山県白良浜・水族館	H9 年；浜松の凧揚げ合戦
H22 年；静岡県大井川鉄道とその周辺	H8 年；長良川と鶴飼
H21 年；五箇所・八日市大凧祭り	H7 年；田原町のけんか凧揚げ合戦
H20 年；近江八幡 左義長祭り	

### ■ 感想

この撮影会で数々の名作が生まれている。それは場所やテーマによる様だ。平成 31 年の「伊根湾」25 年の「信楽焼の里」平成 22 年の「大井川鉄道」20 年の「左義長祭り」17 年の「へら竿師」16 年の「沿島まつり」14 年の「小豆島」13 年の「柳川ひな祭り」10 年の「高野山」も印象に残る。熊野古道は関剛さんの演出で初のドラマ仕立てであったが、もうあのような企画は望めないだろう。単純な祭りやパレードだけではやはり作品としては纏めにくい。やはり主役と脇役があった方が作品として構成しやすいともいえる。こうした点で、過去の撮影会に比べ、今回主役の祭り行事があつて、脇役の撮影対象がとぼしかったのかな、ともいえる。来年に向け岡本氏が和歌山で構想を練って居られるようで楽しみだ。